

令和元年度 丹波市環境審議会 第2回生物多様性調査・研究部会 会議録

開催日：令和元年6月21日

開会：15時00分

閉会：16時30分

会場：丹波市役所本庁舎 2階 中会議室

出席委員：長井克己委員、山科ゆみ子委員、土井英樹委員、宮川五十雄委員

事務局：井上課長、大嶋副課長兼係長、門内主事、村上主事

1 開会（事務局）

・開会あいさつ（部会長）

こんにちは。本日は、お集まりいただきありがとうございます。いよいよ梅雨入りになりそうなので、生きものを調査する側としては焦りの気持ちがあります。本日は、議題もたくさんありますので、早速よろしくをお願いします。

・出欠、委員紹介、会議資料の確認（事務局）

2 協議、報告

（1）生きものの分布状況の既存資料の整理について

（2）生物情報 収集・提供システム いきものログ [環境省] について

（3）市内で活動する保全団体への情報提供依頼について

（4）その他

（事務局より説明）

（協議）

（部会長）

前回の生物多様性調査・研究部会では、いきものログ [環境省] に情報を蓄積することで、行政側が対策している仕組みになるということや、専門家・市民団体が年々記録を残していくにも、環境省がシステムを維持してくれるため、自身の情報を蓄積することもできると紹介いただきました。生きものの保全のために非公開情報を閲覧する権限を、少なくとも国・県までは持ち得るということでもよかったですでしょうか。ただ、いきものログが意味あるものになるには、分母のデータ量が増えないといけないとも話されていました。

(委員)

いきものログの仕組みについては、大体分かりました。いきものログは環境省のシステムで、日本という大きな枠になっています。地域によって絶滅危惧種は異なっています。丹波地域としての絶滅危惧種をいきものログに加えることはできないのでしょうか。

(部会長)

登録者が情報にフィルターをかけられます。極端な話、自分と環境省にしか閲覧できないように情報を登録することもできます。しかし、行政側はメッシュ情報などでより詳細な情報を閲覧できます。

(委員)

いきものログの活用は行政的なことでよく分かります。一方で、学校的には「丹波市や丹波篠山市ではこのような生きものがあります。両市では、このような違いがあります。」というように教えています。いきものログを使用した場合、全国的な基準で表示されますので、丹波市特有の生きもの情報が伝わりにくいのではないのでしょうか。

(部会長)

前回の部会では、丹波市が独自に丹波市版レッドデータブックを作成することは、更新作業も含め、予算を持ち続けることは難しく、現実的ではないという意見をいただきました。そのようなリストを作成・公表する方法ではなく、基礎データを登録する手段としていきものログを活用します。また、紙でまとめたデータは、紛失の恐れがあります。それらを踏まえて、電子データの保存方法としていきものログの活用の意見が出されました。

(委員)

いきものログの活用は、反対ではないです。必要なものだと思います。ただ、Cランクまではいかなくても丹波地域特有の生きもの情報を抜き出せたらよいと思います。子どもたちには「自然を守ろう」だけでは伝わりません。子どもは、レッドデータブックやDNAなどの言葉をよく知っています。絶滅危惧種に対しては、敏感です。絶滅危惧種が分かるとその種を守っていこうとなります。具体的な方法は分かりませんが、丹波地域の特徴や絶滅危惧種をまとめるのは必要だと思います。

(部会長)

前回の部会でもう1つ意見として出されていたことは、デジタルが普及する前の世代の方々から、丹波市が紙データで情報を受け取ることは、これからもあるだろうということです。それを丹波市が一旦受け取り、情報量が膨大な時には、業者に委託してでもスピーディーにいきものログに入力することで情報をデジタルデータとして蓄積できるのではないかと、

と提案がありました。アナログ世代とデジタル世代と一緒に情報を蓄積できる方法としていきものログの話がありました。ただ、自分が所有しているデータ量を考えると、全部入力することは、大変という気持ちもありますが、最も重要なところは入力しようと思います。

(事務局)

資料7【参考】については、担当が実際に入力した情報です。トノサマガエルは環境省レッドデータブックでは、準絶滅危惧種に該当するため、分布の表示精度がアマガエルの表示精度とは異なります。

(委員)

丹波地域の人間が環境省のレッドデータブックだけを知っていて、地元の特徴や状況を知らないのはどうかと思いました。いきものログは重要だと思いますが、データを入力することは、大変だと思います。

(事務局)

〇〇委員は紙ベースでデータをお持ちですか。データ量は多いでしょうか。

(委員)

はい、紙ベースです。データはあちこちに、結構あります。それを個人で入力するのでしょうか。

(事務局)

個人で入力していただくか、個人での入力が難しければ丹波市でデータを預かって入力することを考えなければ、いきものログに情報が集まらないのではないかと思います。

(事務局)

また、資料1・2のデータをいきものログに入力できないか兵庫県に確認しましたが、「レッドデータブックの作成資料なので、いきものログには入力できない。」という回答でした。そうすると保全団体から提供していただくデータが基礎になると思います。

(部会長)

それについては、あまりに身勝手な話です。兵庫県にもいきものログで地図化できるよう伝えてもらわないと困ります。環境省がいきものログでデータを蓄積しようとしていることに兵庫県が協力しないことはおかしいと思いますので、そこは事務局からも伝えていただきたいです。

(事務局)

その通りだと思います。ただ、兵庫県の担当課だけでは、判断はできない問題だと思います。このデータを入力できるかどうかで、いきものログの蓄積情報に影響が出てきますし、他県では入力されているところもありますので、検討していただきたいと思います。丹波市にとっても、公共工事の時に生きものの分布状況を周知できるシステムになるので、大変メリットのあることだと思います。

(委員)

魚類はデータ入力できると思います。資料の中で間違っている情報もあります。

(部会長)

先ほど、情報の間違いの指摘がありました。データの精度について、元データが怪しいものも混じっています。例えば、某河川にかかる橋でムササビのフィールドサインを確認とありますが、その河川にかかる橋が見当たりません。近い名前の橋はありますが、地理的に大木がなくムササビは生息していないと思います。前回の生物多様性調査・研究部会で指摘があったのは、データの精度を上げるには元データに近い人に話を聞かないといけないということです。リストとして出てきている「某水域」などのレベルでは、範囲が広すぎます。ただ、分類群ごとにデータの質の上げ方は、異なると思います。植物は某保全団体 A に詳しい人が多いと思います。ピンポイントで場所が分かったうえで対策を検討できる情報のほうが丹波市として必要ではないでしょうか。「最新情報の追加」と「既存情報の確認」を進める必要があります。一方、専門家でフィルターをかけるという意見もあります。20年以上前のデータも含まれていますので、専門家から見てあり得ないデータや現実的ではないデータは弾きます。また、市民団体のほうが詳しく持っているデータもあると思います。特に野鳥などは不足しています。そのため、市民団体の協力は不可欠だと思います。このリストに載っているものについて、より正確な実在データを確認するためには、発見者に近い人にお話を伺う必要がありますので、その際に誰が要になるかを市民団体と相談する必要もあるかと思います。データ収集やふるい分けの担当者（分類群ごと）は、例えば、野鳥は〇〇（部会長）、水生昆虫と魚は〇〇委員、動物は〇〇委員、植物の市民側の窓口は〇〇や〇〇副部会長、専門家は森林動物研究センターの研究者という感じになるかと思います。

(副部会長)

今年4月に森林動物研究センターへ赴任された先生が、青垣地域の植物の生息範囲の地図（点落とし）を作って、青垣支所、青垣いきものふれあいの里に1部ずつ提供されているはずです。

(事務局)

公開可能な情報でしょうか。

(副部長)

可能だと思いますが、一度確認して下さい。話は戻りますが、精度を上げるというのはメッシュ落としをするということでしょうか。

(部長)

現在の状態が知りたいです。少し遡ってもメッシュデータにあたるぐらいの絞り込みが可能かどうかを確認したいです。

(副部長)

鳥は無理でも、植物ならメッシュ落としはできそうですね。

(部長)

元データの取り扱いの仕方は別にして、ピンポイントな情報も持っていただいて市役所と共有できたらよいと思います。前回の生物多様性調査・研究部会では、ある程度情報が集まったなかで、質のよい情報があるものについては現地確認などを優先的に行うべきではないか、という意見が出ていました。この資料には、青垣いきものふれあいの里が所有しているデータは入っていますか。ナチシダなどは、ピンポイントの地図データがあると思います。

(事務局)

昨年度、青垣いきものふれあいの里に提供いただいた情報は、入力しています。

(部長)

今は A ランクを最優先していますが、分類群によっては変わります。両生類については A ランクが分布していませんが、ヒダサンショウウオやカスミサンショウウオ、オオサンショウウオなどは、丹波地域で保護しなくてはならない生きものです。このように分類群ごとに重みづけのあり方が変わります。野鳥で言えば、ルリビタキは兵庫県レッドデータブックでは A ランクですが、これは繁殖個体群のことで、丹波地域ではほとんど記録がありません。越冬個体群は庭先などにいます。そのようなフィルターも専門家でかけることになると思います。ただし、これは分類群ごとの話です。植物は A ランクなら間違いなく A ランクだと思います。難しいふるい分けについては、〇〇委員たちが相談してくれると話されていたので、人と自然の博物館の先生などにも協力してもらおうほうがよいと思います。また、市民団体が守ろうとしているものも反映するべきです。ただ、市民団体もひとくくりにはできません。このような作業に協力的で偏った考えをお持ちでない人たちと協力体制でやっ

ていきたいと思います。なお、A ランクの生きものについて公開するかたちではないですが、この場所にはこの生きものがいるので注意しなければならない、と行政や地域で反映されればよいと思います。

(副部会長)

記録に残さないといけないですね。

(部会長)

そうですね。議論が拡散的になってしまいましたが、どの分類群ならどの団体が協力できそうか、議論していきたいと思います。魚類は、山科委員の団体をお願いしたいと思います。資料5（市内保全団体一覧）を見ていきましょう。

<資料5を元に市内保全団体の現在の活動状況等について確認>

(事務局)

これらの保全団体への呼びかけはどのようにしましょうか。生物多様性に関する情報収集をしています、という呼びかけだけではいけないと思います。

(部会長)

もう少し頼む内容を絞り込んだほうがよいと思います。保全団体によっては、もっと詳しく呼びかける方法があると思います。まずはA ランク、という収集方法はのでしょうか。

(副部会長)

A ランクの生きものは数が少ないので、その情報を探すことは難しいと思います。

(部会長)

一例として某保全団体 B に依頼する場合は、鳥の名前のリストを渡して、鳥の分布図を地図に落としたいと言えば伝わると思います。しかし、某保全団体 C は、保全している生きものが A ランクではないので、依頼する方法が変わると思います。

(部会長)

遠回しな依頼方法より、このようなデータを丹波市が集めるので協力願います、と依頼してはどうでしょうか。

(副部会長)

このような難しい話を文章にすると更に難しくなってしまうので、お会いして口頭で依頼

する方法がよいのではないのでしょうか。

(部会長)

そうですね。私が加入している団体については、私が話はできます。

(副部会長)

森林動物研究センターは、〇〇委員にお願いしましょう。

(部会長)

実は昆虫が最も手薄ですが、どうでしょうか。

(副部会長)

お話を伺うなら、有識者 A がよいと思います。ここへ来ていただいてお話を伺うことは、ご年配なので難しいかもしれません。

(部会長)

有識者 A と有識者 B にお話を伺えば、昔から最近までの分布情報がある程度は、分かると思います。

(副部会長)

2人とも青垣いきものふれあいの里に情報提供しているので、青垣いきものふれあいの里に確認してみてください。データ化もされているかもしれません。

(部会長)

人と自然の博物館か森林動物研究センターに丹波地域の昆虫の詳しい専門家がおられましたか。

(事務局)

前回の生物多様性調査・研究部会では、現在は北海道で仕事をされているという話でした。

(副部会長)

昆虫なら、標本に採取した場所が書いてあるのではないのでしょうか。

(部会長)

産地情報に間違いはないですが、どこまで絞り込んで書くかは発見者によって異なります。氷上郡としか書いてないものもあります。氷上郡のどこかというのは発見者本人に確認す

るのが一番だと思います。

(副部会長)

有識者 C も自分でデータを持っていると思います。丹波市では、昆虫と植物の調査が先行しています。

(事務局)

先日、「河川工事をしている場所に、希少種の貝が生息している。」と市民から連絡があり、専門家に保護措置の対応方法をご教授いただきながら、工事を進めました。

(委員)

場所はどこですか。

(事務局)

市内某所です。いきものログに情報があれば工事前に生きものの情報を確認することができ、環境に配慮しながら工事することもできると思います。

(副部会長)

団体だけでなく、個人で活動して情報を持っている人もいます。個人で活動されている人たちからも情報を収集しないと、その人たちの持っている情報が漏れ落ちてしまいます。

(事務局)

しかし、どうやってお声掛けしましょうか。私たちが存じ上げない人も多いです。

(部会長)

例えば、市としてお願いの書式を持っておいてもらうほうがよいのでしょうか。

(副部会長)

そうですね。

(部会長)

常時、情報収集は続けることになると思います。

(事務局)

資料 1・2 の生きもの分布情報をいきものログにすぐに入力できないという状況ですので、調整して入力できるようになってからが今回の話の始まりかと思います。

(部会長)

兵庫県から提供いただいているデータはそこまで多くないのではないのでしょうか。元データの所有者は、市内の保全団体や個人が多いと思います。

(事務局)

直接、発見者や確認者から情報提供いただくことも1つの方法かと思います。

(委員)

しかし、個人で分かる人は限られると思うので、やはりレッドデータブックを反映させるほうがよいと思います。

(部会長)

兵庫県は、独自の河川調査などで発見されているデータをもっと持っていると思います。それでは、昆虫については青垣いきものふれあいの里、有識者 A、有識者 B、有識者 C にお話を伺うところから始めましょう。植物は、丹波草木誌などのデータがほとんどだと思います。本来はもっとあると思います。現場については、某保全団体 A が昔からの場所などを知っているはずで、そのほうが具体的に地図に落としやすいと思います。保全団体に丸投げでなく市役所や私たちが協力して確認できるものは確認していきたいと思います。

(事務局)

これから団体や個人に依頼する内容やタイムスケジュールはどうでしょうか。

(部会長)

丹波市で確認履歴があるものを中心に、「既存資料の分布情報が正確であるか確認すること」と「最新情報の提供を依頼すること」でどうでしょうか。

(事務局)

資料1・2は、外部に公開できません。資料3・4（早見表）は、外部に公開できます。

(委員)

資料3・4（早見表）の中で、丹波市で確認された生きものに丸印をしてその情報を渡し、その情報をもとに確認した地点を地図に落としもらうのが分かりやすいのではないのでしょうか。

(副部会長)

市の地図に確認した地点を落としますか。それともメッシュの地図に確認した地点を落と

しますか。

(部会長)

メッシュは最終的にいきものログで公開するときに使用します。聞き取りの元データになるものは、生きものを確認した地点を落としたいです。

(委員)

環境省が送ってくるメッシュの地図がよいと思います。地域ごとの細かい表示の地図です。

(副部会長)

その地図は落としやすいですが、枚数が多くて大変かと思います。

(部会長)

生きものを確認した地点レベルで地図データが欲しいです。魚でも「この川にいる。」だけでは意味がないです。最終的には、メッシュにするにしても、ピンポイントデータが基本だと思います。

(副部会長)

その通りだと思います。

(委員)

メッシュの地図でピンポイントに記入してもらえばよいのではないのでしょうか。

(部会長)

3次メッシュと呼ばれているものでしょうか。

(副部会長)

3次メッシュだったかは分かりません。

(事務局)

環境省が自然環境保全基礎調査で使うものでしょうか。

(委員)

それだと思います。

(副部会長)

それだと落としやすいと思いますが、枚数が多くなると思います。

(事務局)

何百枚のレベルでしょうか。

(委員)

丹波地域だけなのでそこまで多くないです。

(委員)

地図が基盤のようになっています。

(副部会長)

1キロメートルごとに細かく四角い枠になっています。

(部会長)

元データはポイントが大事なので、メッシュ地図でも点で落としてもらいます。いきものログに反映させる時はメッシュにします。

(事務局)

期限はまだ決めなくてよろしいでしょうか。次回、7月の環境審議会は第1・2回生物多様性調査・研究部会の進捗状況を報告していただくことになると思います。

(部会長)

地図は早く欲しいです。季節が進むと生きものの状況も変わります。スタートは早くしないと、今年抑えられるデータも抑えられなくなってしまう恐れがあります。

(事務局)

それでは、次回の環境審議会までに部会長と調整を行い、各所へ調査依頼をかけるころまで検討できればよいと思います。

(部会長)

こちら(生物多様性調査・研究部会)の手間が少なくなるよう情報がたくさん集まる団体へ優先的に依頼してもかなりの量になります。ある程度、情報が集まって整理されてきたら、色々な方に協力をお願いする体制も考えられると思います。副部会長、議事録の署名をお願いします。

(事務局)

いきものログを活用することにより、丹波市の環境が守られる助けになるでしょうし、情報のデータ化も大きな進展だと思います。

3 閉会

(副部会長)

色々な意見を出していただきありがとうございました。全ての意見が出たというわけではないですが、1つ2つと進めていきたいと思います。本日はお疲れ様でした。